

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム大空	評価実施年月日	平成20年3月10日
評価実施構成員氏名	清水 敏子 高橋 めぐみ 森谷 公博		
記録者氏名	清水 敏子	記録年月日	平成20年2月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>四季折々の地域行事の積極的参加、またホーム行事等に地域の方、家族の方々への参加の呼びかけでふれあいの場を作り、日々その人らしく暮らして頂く様「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を基に理念を踏まえ関わっている。</p>	○	地域また家族の方々と更に交流を深め地域に根付いたホーム作りを目指したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>その人らしく日々生活して頂ける様「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を合言葉にその人が今「何かしてほしい」また「望んでいる事は何か」を見出す為、サインの見極めを職員全体で話し合っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ホームで発行している3ヶ月毎の「大空だより」を、地域また家族に配布する事で季節毎、あるいは月毎に実施しているホームの、内容と理解また参加を呼びかけている。</p>	○	ホーム内に入居者、知人がいなくても気軽に中に入りお茶を飲み会話がもてる雰囲気を保ちたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>ホーム内に近隣から入居された利用者がある為、朝出勤時、目が合うと気軽に挨拶などコミュニケーションが図れている。時々ホームに遊びに来られ地域住民ならではの情報も聞かれます。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>四季折々に関わる行事の誘いかけ封書などその人の身体またその時の状況により活動への参加を判断し対応している。地元でのお祭りには天気の状況により参加している。おみこしなどホームの前を通る様取り図って頂いている。</p>	○	若い頃慣れ親しんだ事の習慣を継続させたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ホーム独自としては特に支援はしていない。入居者の中で夫が入居し、妻が高齢であり一人で生活している為、週一回電話また面会が無い時は様子を確認する事がある(週二回ヘルパー、デーサービスを利用している)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>日常の作業を実施する中で、様々な取り組みを図っているがその内容の評価を得る事で、改善すべき事の指摘を受け、その内容に関する資料を作る為の方向性を見出す。更にその状況を理解し、活用する事が意義のある事と考えます。</p>	○	指摘を受ける事により更に良い内容の資料を作り活用の範囲を広げたいと考えます。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議の場を開催する事ができず家族会を三回開催する中で評価の内容と報告、話し合い、利用者のサービスについての意見などを受けて居ります。</p>	○	運営推進会議を開催致します。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護高齢課との関わりについては事業所全体の説明会などの集まりにより関わりがあった。福祉課については生活保護の担当職員の方との関わりがあり年数回話し合いをする状況であった。</p>	○	日頃、市担当の方とはコミュニケーションを図り色々な情報を得る事が必要と考える。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>職員全員に研修の機会を得、受講を勧めて行きたいと考えます。</p>	○	受講の取り組みを図ります。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>ホーム内の虐待防止状況について起こり得ていないと判断しています。朝・夕のミーティング、月一回実施する処遇会議の中で様々な情報また意見交換を行い防止している。</p>	○	職員のストレスまた体調など声掛けにより対応を図るよう気配りする。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居を希望される際また解約をする際御家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間を書け説明しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者一人ひとりの状態像に基づきその人の求めている事を把握し、意見・不満・苦情を見極め、その内容を職員で話し合い、反映できる方向性をさぐり、課題の解決を図っている。		実際の要求の中で運営に関する反映を求めるのではなく身体面の不安を不満・苦情として訴えてくるケースがある。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時また「大空だより」更に通院介助など電話での結果報告を個々に合わせた状況で情報を送っている。金銭についても毎月一回領収書と記載してある内容をコピーして渡している。		状況に合わせて家族とは密に関わり、報告を実施しています。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見・不満・苦情につきましてはその内容と状況を受け止め運営に反映する事と考えます。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見・提案につきその内容をしっかりと把握し、その状況に基づき対処している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日常の作業体制を常に意識しその状況に合った人員を配置する様シフト作成時考慮している。また職員の様々な都合も組み入れ不満の出ないシフト表を作成する様心がけている。		四季の中で休日が重なる事がありその時はその状況の中でお互い話し合いによりゆすり合う様言葉を入れる事もある。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者が出ない様心がけている。また移動による影響もあると考えられるが年度変りなどで担当者の変更は多少はしかたのない対応と考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成の為、研修を受ける機会を掲げ全職員に研修の場を提供している。更に受けて来た内容の報告書を作成し他の職員に報告する場を作っている。</p>	<p>研修報告の内容を聞き他職員の育成にも役立っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>様々な研修の場へ参加する事で、他ホームの方々と交流し、お互いの仕事をしている環境を話し合いその中から得るものがあると考える。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員と会話を多くする様心がけている。孤立感が起きない様良い職場作りをする。また、ストレスの解消を図っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員が向上心を持って働くことに関して研修への誘いがけ、日々の作業の中での見守りとほめ言葉。更に声掛けと笑顔で接する様心掛けている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人と関わり、ゆっくりと話を聞く。状況によっては手を握るなどのスキンシップを必要と考える。その事により、信頼関係が生まれる事もあると思う。更に本人からの訴え時、口をはさまず話を聞く。</p>	<p>相手と信頼関係を作る事が大切と考える。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が話しやすい雰囲気作りをする。受け止める姿勢を崩す事なく何時も待っている様に話しかける。</p>	<p>家族とコミュニケーションを図る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をしっかり受け止め、ホームの立場としてどこまで関われるか、また支援することが可能か見極め対応することが必要と考える。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族から色々な情報を得ながら、興味のある事、また趣味は何かを探り、他の利用者で共通した内容を見出しながら、溶け込める様関わっている。また職員からの意見も聞きながら工夫を重ねている。	○	日々の生活の中から徐々に慣れ親しんで頂ける様な雰囲気作りをする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	気持ちの通う人間関係を築く第一歩として相手に対する思いやりが大切と考え、常に一歩さがる姿勢とその中から支援する関係を作る。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の方を軸として家族の方と関わりを持ち常にコミュニケーションを図るよう対応している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月に一度は家族の方へ近況報告をしている。身体面・精神面の変化を細かくお話しています。状況によっては通院の都度、受診内容を報告する対応を行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々ホームの方へ訪ねてくる方、またお電話などにより、馴染みの関係を保っている方。郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わって行きます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う同士での食事の座席配置や、日中は利用者全員が顔を合わせてコミュニケーションを図る為、ダイルームでレクリエーションを楽しむ様配慮している。	○	世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる様、ホーム内のお手伝い支援にも取り組んでいる。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状のやり取り、大空新聞の配布、ホーム内のイベントの参加等、協力して頂きながらお付き合いをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が困難な方でも、より深く関わる事で本人の希望とする事を引き出す努力をしています。家族が訪問・電話の際は、様子を伝え、介護計画に反映できる様家族の意見も取り入れている。	○	入居者・家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に状況記録(生活歴、趣味、希望、部屋の間取り等)を作成し、施設長・ケアマネ中心に会議を行い、職員全員で共有化している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人のケース記録があり、それ一冊ですべての状態が把握できる様になっており、すべての職員が共有化し、個別ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護職員から現状の情報を収集し、一人ひとりの状態に合わせたより良い生活を考え作成しています。本人、家族の希望を把握し、分かりやすい表現を心掛け作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	最低三ヶ月に一回見直しを行っているが、状態の変化に応じて本人・家族・担当者と話し合い、区分変更申請をし、結果に応じた見直し・計画を立てている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に入れ、介護計画に取り入れています。又、介護計画は個人の日報に添付しており、すべての職員が意識できる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設で対応出来る内容を考慮しながら、多機能性を活かす様研修の受入れ、認知症の理解や関わり方についての相談対応、家族・ボランティア等の見学も随時行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	家族の交流の場において、サークル活動で行っている民謡・舞踊を見せて頂いたり、学生の福祉活動の慰問で協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	各事業所と情報交換・連携を図り、デイケア等のサービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで行っている研修の場で指導頂いたり、情報交換・連携を図り協働している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者・家族の希望する医療機関。また、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者・家族の求める医療機関については、医師と連携が図れている事も有り、指示・助言が得られる。嘱託医に対しても対応できる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の資格を有する職員が常勤している。また、夜間・祭日を問わず緊急時に相談・受入れしてくれる協力医療機関がある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院また家族と連絡を取り、常に意識すると共に早期退院に向け連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化・終末期についてその内容、また、症状に応じて家族の指示を受けます。家族と医療機関で納得するまで話し合い、共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様医療機関と連携を図り、緊急時の対応など検討・準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居・退去において、その利用者を取り巻く関係の方からの情報交換を行い、明るくダメージのない環境作りをしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>さりげない介助で自立支援を心掛けており、常に大切な方をお預かりしている事を念頭においている。又、個人情報についてもプライバシーの徹底について職員全員周知している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>選んでもらう場面作り、選ぶのを待つ姿勢で取り組んでいる。バイキングの日をもうけ好きなメニューを選んで頂いたり、買物・外出等の希望は随時行っている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースでゆっくり・いっしょに・楽しく生活出来る様支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>家族に以前の服装について聞いたり、入居前と変化しない様になっている。いっしょに服・化粧品を買いに行き好きな物を選んで頂いたり、行き付けの理容・美容のある方は希望の所に行っている。</p>	○	<p>理容室へ行くのが困難な方は、理容師の資格を取得している職員が行っており安心した表情が見られる。その人らしい髪型を把握し、職員の価値観で変えない様になっている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>介助が必要な方も多く利用者と職員はいっしょに食事を取っていませんが、利用者と共に準備や片付けを行い、自分の仕事として楽しくお手伝いして頂いている。</p>		<p>利用者と職員と一緒に食事が楽しめる様前向きに考えて行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙を希望される方は現在いません。飲酒希望され、既応歴もあり、ドクターに関わった所、禁止された事が何件か有り、飲酒はしていません。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツは最終手段と考えており、排泄パターンのチェック排泄について十分なアセスメントを行い、トイレでの排泄がホームに来てから出来るようになった方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっているが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっている。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。	○	デイルームにソファを設置し、好きな時にひと休みして頂き、そっと布をかけてあげるなど支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	以前の職業を生かした役割・趣味・習慣等の把握をしている。楽しみは職員も共に楽しみ、役割を果たして頂いた時は感謝の気持ちを言葉にしている。		以前理容師をしていた方には入浴後のドライヤーを担当して頂いたり、食器洗い・洗濯物たたみ・相撲観戦・カラオケなど色々な場合が見られる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方はお任せしており、ホームで預かっている方も買物の時は財布を持って頂き、自分で支払いが出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	リハビリを踏まえ散歩、ドライブを行っている。またデパートに行き、ショッピングに出掛けています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域で実施されているお祭りや季節に合った行事を考え、出掛けています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をしていただきます。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人が来園された際には、笑顔と大きな声で挨拶を行い、居心地の良い時を過ごしていただけるように心掛けています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修を行い、職員全員が理解しています。やむを得なくベットの柵を使用している方々に関しては、同意書をいただいています。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠はしていません。行動パターンの把握、外出を察知し、本人が納得されるまで親身に対応をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、本人の意向を第一に考えた対応を心掛けています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員の目の届く所に保管し、保管場所には鍵をかけています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内外において、研修会、講習会に参加する機会を作り、学習を行っています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成しており、電話の前に設置する事で落ち着いた対応が行える。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練については、通報、避難、消火器の使用を行い、防火チェック票を作成し点検を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の方と情報の共有をし、話し合いを行い一番良い方法を考えられています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定、食事、水分の摂取量を記録し、身体の変化や異常に気づいた際には、バイタル測定をする事で早期発見が出来るように、職員全員が心掛けています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの指示内容、内服の変更は、口頭、記録により、全職員が周知出来る体制を組んでいます。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自然排便を促す為に食事、水分の工夫やストレスによる便秘も視野に入れ、楽しく体を動かす機会を作るように支援をしています。状況により下剤で対応している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行うことで、口腔内の清潔を保っている。また、歯科衛生士の資格を持った職員がいる為、出血、炎症などが見られた時は、指示により対処しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	刻み、ミキサー、など、一人ひとりに合わせた食事形態を見極め対応をしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員のインフルエンザ予防接種の実施、施設内の衛生面、また医療機関との連携を図り、対応の徹底をしています。	○	今後も感染症を予防する為に医療機関との連携を図りたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>役割を分担し、清潔を保つ為チェック表の記入、台所の消毒、手洗いの徹底を行っています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、入居者と一緒に手入れをしている花壇があり、冬には、雪だるまを作り、親しみやすいよう工夫をしています。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ディールームには、季節に合った飾り、心地良い音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは、光が射し込む為開放感があり、穏やかに過ごしています。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ディールームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には、中庭には椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでいただけるよう配慮をしています。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になるように心掛けています。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に温度計を設置、こまめにチェックを行い窓の開閉、換気扇の使用し調節をする事で、適温を維持している。希望者には、加湿器を設置して過ごしやすい環境作りを心掛けています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	自力で行える事を考え、配膳、食器洗い、洗濯物たたみなどをしていただいています。	○	多くの方に色々な事していただけるよう今後も援助したいです。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員全員が入居者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心していただけるような声掛けをしています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先の花壇の手入れ、水撒き、落ち葉拾い、など季節に応じた作業に活用して頂ける環境作りをしている。	○	より多くの活動に利用したいと考えています。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>本人・家族からの聞き取りや、本人の生活パターン・表情等から読み取り、意向に沿える様努力している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>それぞれの利用者に応じたレクリエーションを行い、ゆっくり・楽しく過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その方を知りペースを崩さぬ様、常に念頭において支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>利用者・職員との信頼関係が保たれており、利用者の笑顔も多い。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その方の身体状況で困難な場合もあるが、希望により外出できる。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>週に一回の看護師による問診により、安心して過されている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その方らしさ・希望を一番に考え、常に支援している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>来園時・電話・各居室に設置されているノートにより利用者の生活をお伝えし、常にコミュニケーションが図れ、安心した表情が見られる。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>馴染みの方が来園され、楽しそうに話をされています。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない	家族会は行っているが、推進会議はしていないので今後は積極的に行いたいです。
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	全員が助け合い、協力を心掛けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	一人ひとりに合ったサービスを提供し、本人や家族の意向を取り入れています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない	サービスについて、丁寧に説明を行う事で満足をしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)